

# 売れ行き好調の一冊

「異端の時代」  
と聞いてイメージ  
されるのは、かの  
国の大統領でしょ  
うか。ビジネス界、  
文化や学問の世界  
の現状を思う方も  
いるかもしれま  
せん。

## 「真の異端」を目指す気概を

森本あんり『異端の時代』

正統のかたちを求めて』

台頭しているけれど、それがこのまま社会のなかで膨らみつづけたとき、どんな未来が私たちを待っているのか。「正統」が息を吹き返すことはもうあり得ない。

肝に銘じたい一文や、ときに痛烈な皮肉が織り込まれた筆致もロングセラーをささえる魅力で、なかでも「なんちゃって異端」という表現に心をつかまれた読者・評者の方は少なくないようです。

政治をはじめ、あらゆる領域で、これまで当然とされてきたルールや慣行が通

失われつつあります。人々の不信・反発をバネに、権威に挑戦する反知性主義が

いのか——著者が十年来、探求してきた問いが、新書として形になりました。

丸山眞男の正統論をふまえて初期キリスト教史を辿りなおす前半部分では、「異端」とはどのように生まれるのか、一般的なイメージを大きく覆すメカニズムが明らかにされます。その議論が後半、現代民主主義

もたらすという、両者の意外な関係性も解き明かされています。

反知性主義の先に  
何があるのか？

30

現代社会の深層へ——  
「異端」と「権威」の理念を究む  
丸山眞男の正統論をふまえて  
初期キリスト教史を辿りなおす  
前半部分では、「異端」とは  
どのように生まれるのか、  
一般的なイメージを大きく  
覆すメカニズムが明らかに  
されます。その議論が後半、  
現代民主主義

272頁・860円

岩波書店

978-4-00-431732-0

「真の異端」  
を目ざす気概をもつにあ  
って、ぜひおすすすめしたい  
一冊です。

(岩波新書編集部)